

大分港大在コンテナターミナル

脱炭素化の取組主体	主な取組内容
大分県	大分港港湾脱炭素化推進計画の策定
	インバーター制御方式のガントリークレーンの導入
株式会社大分国際貿易センター	管理棟の省エネルギー

[ターミナル概要]

大分港大在コンテナターミナルは、1996年に供用を開始し、総面積22ha、水深10m・14mの岸壁（総延長450m）を備え、5万トン級のコンテナ船の接岸に対応しています。

また、外貿定期コンテナ航路として韓国、中国及び台湾とを結ぶ3航路、国際フィーダー航路として神戸港及び北九州港（ひびきコンテナターミナル）を結ぶ2航路が就航しており、東九州における国際物流拠点として重要な役割を担っています。

2025年3月に策定された「大分港港湾脱炭素化推進計画」に基づき、インバーター制御方式のガントリークレーンの導入や管理棟の省エネルギー化などに取り組んでおり、大分港におけるカーボンニュートラルポート（CNP）の形成に貢献しています。



認証レベル
Level 1+

(認証日 令和8年8月25日)

CO₂排出量原単位
13.2 kgs CO₂ / TEU



大分港港湾脱炭素化推進協議会



インバーター制御方式のガントリークレーンの導入
(全2基)



管理棟の省エネルギー（空調設備）